

第3回全関西大学女子バスケットボール新人戦

振り返り

【総務部】

1. 課題点、改善策

- 1) 表彰式にて、学生委員の用意が終わり前に整列した後始まるまでに少し無駄な時間がかった。
→ 学生委員でしっかりと確認をし、最後までスムーズに表彰式を行う。
- 2) 表彰式にて、選手に賞状を授与する際に、選手の名前の読み方がわかるようにしていったが、うまくお伝え出来なかった。
→お名前を記載した付箋を外すタイミングを遅くする、授与をする方がお名前を読んだ後に外すなど工夫をする。

2. 報告事項

- 1) 最終日の大浜だいしんアリーナ会場では、オンザコートカップと同時開催であったため、スカウティングエリアを設置しなかったが、終盤でスカウティングを行うチームも限られていたことに加え、本部にてしっかりとチームに共有できたことで問題はなく運営できた。

3. 検討事項

- 1) トロフィーや盾の大きさが小さかったため、来年度以降はその他の大会との関係性を考えながら準備を行う。

【広報渉外部】

1. 課題点、改善策

- 1) 会場の状況について
 - ① YouTube配信の画角の位置が直前で変更となり、立看板の配置に影響があった。
→特に初めて利用する会場の場合は、普段以上に導線や配信場所の事前確認を徹底する。また、競技部・会場担当者との連携を早い段階から取り、直前の変更を極力防げるよう努める。万が一に備えて複数の撮影パターンを準備し、柔軟に対応できる体制を整える。
 - ② 連盟旗・社旗の設置が直前でできなくなった。
→あらかじめ会場のレイアウトや変更の可能性を把握できるよう、取得情報の内容を工夫する。

2) カメラ撮影申請について

- オンザコートカップとの同時開催により、来場者による撮影申請の取り扱いが曖昧になってしまった。
- 不特定多数の来場者が会場を出入りする中でも、関西女子学連としての方針を明確に示し、SNS等も駆使しながら注意喚起を行うことで、トラブルの未然防止につなげる。
- 公共体育館での貼り紙の数を増やし、関西女子学連の活動を周知させる。

3) 立看板の配置について

- YouTube配信の画角において、チームが立看板を移動させた後、リングの支柱と重なり見えなくなる時間が生じた。
- ハーフタイム等で学連員が配置の調整を行う。

4) パンフレットの発行部数について

昨年度の販売実績（347部）をもとに、今年度は余裕を持って500部発行した。
1冊あたり370円の単価で見積もりを立てていた。しかし、以下の原因によりパンフレットが不足する事態となった。

- ① 企業や理事などへの無料配布の増加を十分に見込んでいなかった。
- ② 参加校数の増加の見落としがあった。
- ③ 販売数が予想を大きく上回る結果となった。

→発行部数の決定の際に、無料配布対象者数のリストアップをする。また、参加校数の変動や販売実績を考慮し、余裕を持った部数設定を行う。

2. 報告事項

1) YouTube配信の際、立看板の配置から映り方に差が生じたため、1日目と2日目で立看板の配置を変更することで、差を減らせるよう工夫した。

【財務部】

1. 課題点、改善策

1) チームパンフレットの代金と一般パンフレットの代金が混合してしまった。
→チームに代金を持って来てもらう際に、封筒に入れて持って来てもらうようにする。

2. 報告事項

【チーム参加費】

参加費：参加費@25,000×チーム数 26チーム(+2チーム)

合計 650,000円(+50,000円)

【パンフレット】600部発注

チーム販売：@400×冊数 271冊(+11冊)

合計 108,400円(+4,400円)

一般販売：500×冊数 87冊(+20冊)

合計 43,500円(+10,000円)

WEB販売：@600×冊数 15冊(-5冊) ※5月31日現在

合計 9,000円(-3,000円)

パンフレット売上合計 冊数 373冊(+26冊) 金額 160,900円(+11,400円)

【勝ち上がり金】

勝ち上がり金:@2,000×試合数 18試合

合計 36,000円(+4,000円)

収入合計 846,900円(+66,000円)

【競技部】

1. 課題点、改善策

- 1) トーナメント表の拡大版が大会初日に届かなかった。
→発注をもう少し早い段階で行い、印刷業者と密に連絡を取る。
- 2) コンディショニングスタッフが対人メニューを含むアップに参加していた。
→本来コンディショニングスタッフは、
 - ① トレーナーの活動をしている学生へ現場での活動経験の機会を与える。
 - ② プレータイムの少ない選手やベンチメンバの下級生がベンチでの仕事を行っているケース多いため、プレイヤーの負担を軽くし、試合に集中できるようにする。の2点の趣旨から成り立っているものであり、アップに参加しているのは趣旨から反していると判断した。そのため、その場でチームには注意を行った。
→リーグ戦では、チームへの周知の仕方を工夫する

2. 報告事項

- 1) 5/24. 25 の新人戦最終節を「2025 OTC・SPAZO CUP」と同時開催で行った。
(利点)
 - ・公営の体育館で大会最終日を迎えることができた。
 - ・OTC CUP の参加者や観戦者にも、関西女子学連の試合を観戦していただくことができた。
(問題点)
 - ・2つの大会が同時進行で行われることにより、大会間でゲームの重要度の違いが生じていた（練習ゲームと全国予選）。
 - 各大会において試合時間がフルゲームまたはハーフゲームと異なっていた。
 - 服装がユニフォームとビブスで異なっていた。
 - ・椅子や机の数が学連とオンザコートカップ主催者側で、認識が異なり不足が生じた。
 - ・新人戦最終節は、準決勝・決勝を含む新人インカレへの重要な大会であるが、複数のラインをマスキングテープで消さず、かつ緑のラインで実施した。
(検討点)
 - ・今後、OTC カップの隣で準決勝・決勝を行うことはベストなのか
 - ・仕切りで区切ることは可能なのか

3. 検討事項

- 1) 新人インカレへの推薦校のライセンス保持について、今大会は、大会要項の「その他」に推薦条件を記載し、推薦が決まった場合には、当該チームがライセンス保持者を探し、エントリーすることの責任があり、学連としてはそこまで関与しない（万一、推薦校の中で、ライセンス保持者が不在に成りうる状況になった場合には当該チームと連携を取り、必要に応じて迅速に支援することはある）ということであったが、各チームがライセンス保持者をエントリーできたかどうかの確認をするフローを整理できていなかつことから、2026年度の運用への検討課題として取り扱い、競技部で継続検討とすることとなった。

以下の案をベースとし、2026年度に向けて競技部内で再検討を行う。

- ・C級ライセンスを所有していないチームが推薦枠に入った際には、日学に推薦チームを送る1週間前までにチームがC級ライセンス取得者を確保できたかの確認連絡を行う。
- ・万一、ライセンスを保持できなかつたこと場合を見越し、5~8位決定戦を実施する。ただし、年間を通した試合数の増加、また、1年生が入学して間もない時期である点から、試合数を増やすことは怪我のリスクが高まる危険性がある。

【審判部】

1. 課題点、改善策

試合開始30分前に受付がない審判員の方には学連から連絡をする、としているが、今回、それ以前に審判員の方から状況を聞かれた際にスムーズな対応が出来なかつたので、審判員の方から問い合わせがあつたら、対象の方にすぐに連絡を取るようにする。なお、他の部署の学連員が状況を聞かれたら、すぐに審判部の学連員が連絡を貰い対応出来るようにする。

2. 報告事項

受付時間ギリギリに来られた審判には、今後受付がギリギリになる際は連絡を頂きたくと言うことを伝えていくことが出来た。
→前もって状況把握が出来るよう努める。

3. 検討事項

リマインドメールについて
→担当の30分前に受付がない場合、学連員から連絡させて頂きます。という諸連絡の「30分前」を見やすく強調するのか検討する。